

市内公共交通の見直しに向けて

【市内交通環境の現状】（別紙 1）

- ①市内には、現在の市内循環バスが運行できない狭あいな道路が存在すること。
- ②鉄道の踏切があるため、バスの東西の横断については、定時運行が困難であること。
- ③市内バスの運行範囲や運行本数は、地域により偏りがあること。
- ④市境の人は、市外が生活圏内であること。
- ⑤市内循環バスと民間路線バスと重複している路線があること。

【市内循環バスの利用状況】

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
一般利用者	80,007 人	72,916 人	67,860 人
高齢者特別乗車証利用者	95,996 人	99,853 人	97,507 人
障がい者特別乗車証利用者	11,814 人	13,610 人	14,746 人
合計	187,817 人	186,379 人	180,113 人
補助金額	21,774,089 円	25,081,007 円	26,900,000 円

【想定できる交通手段】

交通手段	メリット	デメリット
市内循環バス	<ul style="list-style-type: none"> 輸送量が大きい。 利用料金が安い。 誰でも利用が可能。 	<ul style="list-style-type: none"> 狭あいな道路の運行が不可。 運行本数に限りがある。
デマンドタクシー	<ul style="list-style-type: none"> 市内全域をカバーできる。 利用者の自由度が大きい。 自宅からの利用が可能。 	<ul style="list-style-type: none"> 登録等の手続きが必要。 バスより利用料金が安い。 路線バスに影響が出る可能性がある。
小型ワゴン	<ul style="list-style-type: none"> 狭あいな道路でも運行可。 利用料金が安い。 誰でも利用が可能。 	<ul style="list-style-type: none"> 乗車できる人員に限りがある。 運行本数に限りがある。

【補助金額の試算について】

①市内循環バス

※車両（ノンステップバス）購入費 5年減価償却 年間約 360 万円/台

台数	補助金(円)	
	利用料金 170 円の場合	利用料金 200 円の場合
2 台	(現状) 26,500,000	△2,100,000
3 台	16,800,000	13,700,000

②デマンドタクシー

25,300,000 円 実証運行時の同条件時の想定補助金額

- ・ △ 5,600,000 円 利用対象者を制限(65 歳以上、障がい者、妊婦、要介護認定者等)
- ・ △ 2,800,000 円 利用回数(年間 48 回)を制限
- ・ △ 6,600,000 円 利用回数(年間 24 回)を制限
- ・ △ 7,900,000 円 利用対象者及び利用回数(年間 48 回)を制限
- ・ △10,700,000 円 利用対象者及び利用回数(年間 24 回)を制限

③小型ワゴン

運行経費 約 1,000 万円/台(ふじみ野市参考)

※運賃収入は運行実績がないため想定できません。